

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 682 号] 2019 年 4 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3-47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 682

April 2019

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## バッハのカンタータからの、ポピュラー曲集の成りゆきは？

大村 恵美子 (主宰者)

J.S. バッハのカンタータ全作品に日本語歌詞を加えるという私の希望は、奇しくも米寿 (88 歳) の月の 3 月末に、叶えられました。まず、新バッハ全集に訳詞を書き入れ終えましたが、しかし、私の全生涯を費しても、それらの全曲が現実に出版されることはあるまい、という実感を同時に強く抱きました (現存 200 曲中、合唱団の出版局で発行済みの日本語版楽譜は 77 曲)。万が一、未来に現れたどなたかが、時を得て、よし、出版されずにいる残りの曲全部を、出版してみようと思いつき、ブライトコプフ社と提携して実現してくれるという幸運に恵まれるならば、日本中のバッハ愛好者は、どんなカンタータも、内容になじみつつ歌えるようになるでしょう。原稿は完成しています。

どうしてブライトコプフ社かという、私が高校生のころに、バッハの声楽曲に目を開く機会を得たときには、まだ新バッハ全集など存在していなかったという、歴史的な理由にほかなりません (\*)。ブライトコプフ社自体も、新バッハ全集が出来てからは、くり返し旧楽譜に訂正を施し、私も、機会ごとに新しい楽譜を買ってみると、4、5 回もページ数が変わって、対応にまごつくことが度々あります。

そして数年前からは、やっと訳詞によるカンタータ演奏が、聴衆にも浸透していることが実感でき、リピーターも漸増しているのが、客観的なデータにも確認されるようになって来ました。

私たちも、機械的に、BWV の順序に演奏するのではなく、その時々にはふさわしいものを初演・再演しながら、半世紀をすごして来たので、ひょっとすると、感銘の比較的乏しい内容の作品ばかりが残るのでは、というひそかな危惧も、若い頃はいだいていましたが、創立 50 周年の時点に立って、未演の数十曲にいいよ分け入って見ると、これが何と、人生を長く体験してきた人間に、まさにふさわしい、ただ明かるく正しく希望にみちたプラス思考のものばかりではなく、悩



■ 3 月 19 日、団員のみならず、友人方、器楽の方も加わって、春のうららの隅田川の舟下りを楽しみました。浅草の小柳で昼食、米寿の祝い花束をいただきました。  
写真：本田茂樹氏 (団員)

み・苦しみに対する慰め、いましめ、立ち直りという、より深い共感にみちていて、重い体験を深めてきた私たちの人生感を待ちかまえていたかのように、それらの作品群があたたかく迎えてくれ始めたのです。なんという喜びでしょうか。セバスチャンは、65 歳で人生を終えましたが、3 世紀後の私たちは、人生 100 歳の時代に入りつつあって、合唱団創立 50 周年 (2012 年) には 81 歳となった私の例でも、まだまだバッハ時代の最晩年の手前で生きているようなものです。

そのころから、私は、全カンタータの日本語訳詞による演奏は達成できないとしても、なんとかこの国への普及化を進めることはできないものか、としきりに思うようになりました。1970 年代に、私がお母さんコーラスの指導に誘われたとき、私はまず BWV 78 の S/A 二重唱 *Wir eilen mit schwachen, doch emsigen Schritten* (急ぎゆかん 弱くともたゆまず) (大村訳) をレパートリーの始めとして紹介しました。そうしたら、大げさな表現ですが、燎原の火のように、そのコーラスのある、小田急線南林間の町中で、そのメロディーがきこえるような印象になったのです。女声コーラスで歌っていると、家の近くの子どもたちが、目を丸くして外で聞いているのを、今でも思い出します。こんな現象は、おそらく原語で歌っていたら、ありえなかったのです。

バッハのカンタータのポピュラー化、これが、その頃からの私の課題となって、迫ってきました。大合唱はなかなか取りつきにくく、教会の聖歌隊が始めても、

### 月報 4 月号 CONTENTS

- ・第 118 回定期演奏会 ご案内…… p 2
- ・佐々木まり子様よりのお便り (つづき) …… p 3
- ・東京バッハ合唱団 2019 年の活動予定 …… p 3
- ・バッハの音楽日記: 1724 年 …… p 4

\* 1951 年に校訂作業を開始した「新バッハ全集」は、1954 年にその第 1 巻 (待降節カンタータ 4 曲) をベレンライター社から出版し、以降ほぼ毎年カンタータ作品 4、5 曲ほどのペースでの刊行が始まったが、コーラスが使うボーカルスコアの発行は遅れており、いまだに全曲を網羅していない。一方、ブライトコプフ社は「バッハ協会版全集 (旧バッハ全集)」に準拠したボーカルスコア全集を、その時点で完結させていた。当合唱団の発足は 1962 年である。2000 年、当団はブライトコプフ社との提携で日本語版ボーカルスコアの出版を開始し、今日に至っている。

ほんの一時期しか続かない。指導者が尻込みするようです。そんな現場を意識しているの、私は“重唱”こそがベターだと考えました。複雑にきこえないので、子どもたちだって近寄ってくるのです。また BWV 147 の、3 連音符のつづく伴奏にゆったりしたコラール旋律が乗っかる、暖かい母の抱擁のような、断トツのポピュラーな曲（「主よ人の望みの喜びよ」の邦題で親しまれている）は、着メロやテレビのCMなどで、耳にしない日はない位です。いつまでもこれ1曲にとどまらせていて、いいのか？

私は、重唱はお母さんコーラスでかなりの数を経験しましたが、独唱の中にも、すでにキリスト教会の讃美歌集にも入れられている BWV 68 のソプラノ・アリア Mein gläubiges Herze, Frohlocke, sing, scherze「たえなるみ歌の きこえしその夜」（讃美歌第二編 50、由木康訳詞。大村訳では〈わが心よ よろこび歌え〉）の調子のよさは、私のまわりの一般人たちの間でも、「いちばん好き！」という友人が数人います。ただ明るく調子よいものだけでなく、しっとりした、慰めにみちたもの、暗い思いから天を仰ぐもの、人生を重ねた者達が出逢ってきた、多様な内容が、バッハの音楽では、上だけでなく、深々と私たちの心を包みこんでくれるのを、長く生きるにしたがって、実感することができるのです。とても外を閉ざして「引きこもり」にかたまってしまうことなど、ありえません。

こんな、いつの日の人生にも有効な、バッハの音楽を、私たちみんなの日々の道連れにしない手はないでしょう。短い（1分）、あるいは長い（6、7分）、多様なコラール編曲も、バッハの手にかかったものは、ある経験者の言によると「ふと心に浮かんで、自分でも知らないうちに、涙がほろほろと流れてとまらなくなった」——これは、人間感覚のどこが刺激された現象なのか、老いも若きも幼きも、感じる人は感じてしまうので、環境の差しか考えられないのではないかな。

というわけで、私は環境づくりの大きな作業として、楽譜出版の確信を深めてきました。まず重唱アリアを2冊、そして、独唱アリアとそのカンタータの結論ともいうべきコラールを対にして1冊。コラールは別に、という意見もありましたが、私は、教会に縁のない人も、コラールに親しむチャンスになれるように、やはりアリアとコラールをひとつにして1冊で出版しようときめました。

まず今年は重唱2冊を出し、その過程を検討しながら、来年にアリア・コラール集を、とっていたら、重唱のとりつきにはあれこれの苦労がありましたが、そのあとはどんどん作業が改良されて、来年の予定だったアリア・コラール集は、自分でも意外なほどに、あっという間に出来あがってしまったのです。それが、私の米寿の誕生日（3月9日）を過ぎて加速度が早まり、なんと完成したのが3月30日。おどろきました。しかし、これは私が外に意図を伝える原稿にすぎませ

ん。これからが本格的な苦労の始まりで、まず実現過程を認識して、予算の割り出し、必要資金の集め方、実務の方々との交渉と、手ごわい仕事ばかりです。最初から資金を手にして始めた経験はこれまでも皆無で、「カンタータ 50 曲選」の楽譜（現楽譜選集の前身）・CDのときにも、予約金や債券などで、日頃この合唱団を応援してくださる方々に呼びかけながら始め、実現させ、まだ一部は借金の形で残ってはいても、実際に日々、楽譜とCDを利用して、これまでの117回の定期演奏会を成功させてきました。

数日前にテレビでノーベル賞受賞の山中伸哉氏も訴えておられましたが、欧米の社会と比べて、わが国では、文化事業に対する寄付金が企業・個人ともに極端に減ってきており、学生の海外大学院への留学も減り、医学も将来が危ぶまれている、ということです。音楽も全く同じで、音楽はタダでつくものという傾向、CDなど定価で買う人は激減のようです。

## 第118回定期演奏会

日時：2019年5月18日（土）午後2時開演

会場：府中の森芸術劇場ウィーンホール

ステージ主題：“悩みのさなかにも 堅き望み”

曲目：J.S.バッハ（日本語上演・大村恵美子訳詞）

- ・カンタータ第109番《われは信ず わが主よ》
- ・カンタータ第166番《いずこへ 主よ 行きたもう》
- ・カンタータ第188番《わが堅き望み》
- ・カンタータ第79番《神は わが光 盾》

演奏：

[ソプラノ] 光野孝子 [アルト] 谷地歎晶子

[テノール] 鏡貴之 [バス] 小藤洋平

[室内楽] 東京カンタータ室内管弦楽団

[オルガン] 新妻由加

[指揮] 大村恵美子

入場券：（全自由席）前売 3500 円、当日 4000 円  
申し込み・問い合わせ：事務局（本紙タイトル囲み内）

## 後援会員・団友の皆さま

### ご招待のご案内

上記公演への「ご招待状」を、2月末送付の月報3月号に同封いたしました。今回は席数に余裕がございます。わざわざのお申し込みの必要はありません。

季節も好し、どうぞ、お仲間・ご友人お誘い合わせのうえ、府中の森へお運びいただけますよう、お勧め申し上げます。ご同伴者のチケットは、事務局にお申し込みください。

後援会員・団友の皆さまで、招待状がまだお手許に届いていない方がいらっしゃいましたら、お知らせ下さい。

今の日本は、2世・3世ばかりの職業政治家による政府と企業が結託して、一般民衆から更に税金や生活資金を絞り取るような、本来使命の逆転がいちじるしく、文化への予算など余計だとばかりの、利益だけを目標にしている、私たちから見ればヤバな人間の支配する、寒々しい国家です。

はたして私が残したいと願うバッハのポピュラー曲集など、国粹主義者たちでもある支配階級の連中からすれば、そんな外国の歌などなんの価値もない、なくてもよいものなのでしょう。それに対抗して、ぜひ成功させてやりたいと思う方々が、私の念願を支援してくだされれば、どんなにかこの国は、潤いをとり戻してくれることかと、私なりに大所高所から判断したいと思っています。さあ、どうなることでしょうか。手を動かしつつも、将来を楽しみに待っています。(4月2日)

## お・た・よ・り

佐々木 まり子 (声楽家、団友)

早や弥生3月に入り、1年の6分の1が終わりました。思いがけず大村先生への手紙文が月報に載っておりびっくりいたしました。クワイヤのメンバーにも読んでもらいました。

また、その月報の中の新刊紹介を読んで、又びっくり。ちょうど私も矢崎節夫著の『金子みすゞ』を2冊読み終えていたので、佐治晴夫氏の『詩人のための宇宙授業』も、ぜひ読みたいと思います。

月報2月号で、ご紹介の宮田光雄氏著の『ルターはヒトラーの先駆者だったか』を取り寄せ、今半分位まで読み進んでいます。宮田氏はその著書『ローズゲン物語』を愛読していましたので、今回も美術史の中の宗教改革の中でクラナハ〜グリュネヴァルト〜P.ブリュゲルの絵画を、とても興味深くじっくり読ませていただきました。ちょうど3月31日まで福島県の郡山市立美術館でブリュゲル展が、東北地方唯一の会場として開催されていて、2月28日に行って来ました。画家一族150年の系譜はバッハ一族にも重なることが多く、選ばれた家系が歴史の一部を担っているのを実感いたしました。よい本のご紹介ありがとうございます。

\* \* \*

佐々木まり子さんは、盛岡市での演奏活動が多くなるにつれて、東京バッハ合唱団定演でのアルト独唱のお引き受けを、お弟子さんに後継なさるようになりましたが、主宰者あてのおたよりは頻繁になり、とても嬉しい思いです。[新刊紹介]欄も利用させていただきますので、最新のおはがき(3月8日)を上にご披露させていただきました。(大村 恵美子)

## 東京バッハ合唱団 2019年活動予定

5月18日(土) ■第118回定期演奏会“悩みのさなかにも 堅き望み” バッハカンタータ日本語演奏

[会場] 府中の森芸術劇場ウィーンホール、  
[開演] 14:00 [チケット] 前売り券、まだ余裕があります。お早目に事務局(本紙タイトル囲み内参照)までお申し込みください。前ページの囲みに詳細

5月25日(土) ■荻窪教会特別演奏会“悩みのさなかにも 堅き望み”(団員の斉唱と合唱による、第118回定期演奏会曲目からの抜粋)

[会場] 日本キリスト教団・荻窪教会  
[開演] 15:00 [演奏] Ob 土屋愛菜、Vn 中川典子、VC 岡山ひかり、Org 田尻明葉、合唱と斉唱・東京バッハ合唱団、指揮・大村恵美子。

<入場無料> (先着100名まで、詳細チラシあり)

7月6日(土) ■創立57周年記念講演会と懇親会

[会場] 日本キリスト教団・荻窪教会  
[開演] 15:30 <入場無料>  
「バッハ音楽と西洋美術史、聖母マリアを主題として」

◎加藤拓未氏(音楽学、NHK-FM「古楽の楽しみ」案内役。団友)「マリアの3大祝日とバッハ音楽」

◎諸川春樹氏(多摩美術大学教授、西洋美術史。団友・後援会員)「聖母マリアの美術史」

<合唱団バザー併催、14:30-17:00>

[懇親会] 18:00(別会場)(詳細チラシ準備中)

7月20日(土) 年次団員総会(通常練習後)、16:30~17:30(荻窪教会、アルト団員担当)

野尻湖2019(8月1日-4日、合宿練習とコンサート)

8月1日(木) ■小布施特別演奏会(第2回)

[会場] おぶせミュージアム・中島千波館、14:00開演

8月2日(金) ■ワークショップ「日本語でバッハ」(第4回)

[会場] 信濃町公民館野尻湖支館(野尻湖公民館)、18:30開始

8月3日(土) ■神山教会特別演奏会(第44回)

[会場] 神山教会(国際村ホテリウム)、15:00開演  
(各詳細チラシ準備中) [曲目] 上記荻窪教会特別演奏会5/25と同プログラム、T鏡貴之、ARSメンバーによる器楽アンサンブル、Org 田尻明葉

11月4日(月/休) ■日本エキュメニカル協会・第3回「講演と音楽の集い」客演

[会場] 東京カテドラル聖マリア大聖堂(文京区関口)、14:00-17:00(詳細未定)。[曲目] 合唱 BWV28/2、モテット BWV228《恐るな》、カノン《平和をわれらに》

12月14日(土) ■クリスマス教会コンサート“《クリスマス・オラトリオ》後半3部を中心に”、2部上演

A会場・荻窪教会 14:00、B会場・三崎町教会 18:30開演  
S 光野孝子、T 鳥海寮、器楽アンサンブル・ARS

# バッハの音楽日記:1724年 (次号、5月号月報 No.683 に、大村恵美子の関連記事予定)

■J.S.バッハの1724年は、ご覧のとおり、カンタータ上演を要するほとんどの日曜りと祝祭日に、新作が提供されたことが判明しています。この勤勉、畏るべし。

1724年の全主日(日)と祝日 (バッハ当時のライプツィヒ教会暦による)	BWV	曲名(「再」はバッハの再演、その他はバッハ初演) 「●」は当合唱団、2020年の上演予定曲	当合唱団の演奏歴「#」:定演、( ):年次 /既刊出版譜の発行年	
1.1 新年祭	190	主に向かい歌え 新たな歌を	#68(1990), #81/*IV独(1997)	2002
1.2(日)	153	主よ見たまえ わがあだは	<未演>	—
1.6 顕現節	65	もろびと シバより来たりて	#32, #76, #101(2007)	2007
1.9(日)	154	イエス君は失せぬと	#77(1995)	2003
1.16(日)	155	主よ いつまでか この苦しみ	#61(1986)	—
1.23(日)	73	生くるも 死ぬるも み心のまま	<未演>	—
1.30(日)	81	主イエス眠り いかにかすべきわが望み	#112(2015)	2011
2.2 マリアの潔めの祝日	83	うれしきこの時	#77(1995)	—
2.6(日)	144	去りゆけ おのが分とりて	<未演>	—
2.13(日)	181	浅く軽き者 み言葉の力を奪い去る、BWV 18 再	<未演>	—
2.20(日)	22	イエス 十二弟子呼びて 言いたもう、BWV 23 再?	#58(1985)	—
2.27(日)ー4.2(日)、6週間		[この間、四旬節の齋戒期:カンタータ上演なし]		
3.25 マリアの受胎告知の祝日	182 再	あまつ君を 喜び迎えん	#1, #9, #45, #102(2008)	2007
4.7 聖金曜日	245	《ヨハネ受難曲》	#11, #28, #71, #110(2014)	—
4.9(日)復活節第1日	31 再	天は笑い 地はどよめく、BWV 4 再	#55(1984)	—
4.10 復活節第2日	66	心はずめ 痛みは去れ	#55(1984)	—
4.11 復活節第3日	134	いま イエスは生きたもう	#61(1986)	—
4.16(日)	67	留めよ 心に イエスを	#67, #102(2008)	2007
4.23(日)	104	牧人 主よ 聞けよ	#2, #4, #25, #75(1994)	2002
4.30(日)	12 再	泣き 嘆き 憂い 迷い	#12, #47, #60(1986)	—
5.7(日)	166	いずこへ 主よ行きたもう	#118(2019 今回)	2018
5.14(日)	86	げに なれらに告げん	#33(1975)	—
5.18 昇天節	37	幸いならん 信じて洗礼受くる者	#77(1995)	—
5.21(日)	44	人々 なれらを追い出すべし(I)	<未演>	—
5.28(日)聖霊降臨節第1日	59	われをば愛する者 われに従え(I)、BWV 172 再	#58(1985)	—
5.29 聖霊降臨節第2日	173(?)	高められし 血と肉よ	#55(1984)	—
5.30 聖霊降臨節第3日	184	●待ち望みたる喜びの光	#58(1985)	続刊
6.4(日)三位一体節	194 再	大いなるこの日 新たな宮を、BWV 165 再	#59, 特(2005), #99(2006)	2004
6.11(日) [ここから第2年巻]	20	いかずちの言葉 おお なんじ永遠よ(I)	<未演>	—
6.18(日)	2	天より見そなわし	#75(1994)	—
6.24 洗礼者ヨハネの祝日	7	ヨルダン河に イエス来たりて	#67(1990)	—
6.25(日)	135	罪びとわれを 罰したもうな	<未演>	—
7.2(日) エリザベト訪問の祝	10	わが魂 主をあがめ	#74(1993)	—
7.9(日)	93	●ただ主に依り頼み	#77, #95(2004)	2003
7.16(日)	不明	[不在か。7.18 ケーテンに客演。後に BWV 9 で補填]		
7.23(日)	107	なんぞ悲しむや おお わが心	#79(1996)	—
7.30(日)	178	主 われらにいまさずば	#116(2018 前回)	2017
8.6(日)	94	いかで世を問わん	<未演>	—
8.13(日)	101	まことのみ神よ 厳しき審きを	#79(1996)	—
8.20(日)	113	●イエス 高き宝	<未演>	続刊
8.27(日)	不明	[翌年、BWV 137(全節コラールカンタータ)で補填]	※翌8.28(月) 参事会交代式も曲不明	
9.3(日)	33	ただイエス君にのみ わが望みかかれり	<未演>	—
9.10(日)	78	●イエス わが心を	#33, #67, #73/III独, #95(2004)	2003
9.17(日)	99	神の御業こそ ことごと善けれ	#79, #95(2004)	2003
9.24(日)	8	み神よ わが死はいつ	#12, #26, #75, V 独(2009)	2000
9.29 聖ミカエルの祝日	130	こぞりて主を頌め	<未演>	—
10.1(日)	114	信仰の友 安かれ	<未演>	—
10.8(日)	96	キリスト 神のひとり子	<未演>	—
10.15(日)	5	いずこに われ 逃れゆかん	#75(1994)	—
10.22(日)	180	装え心よ 罪の闇を去り	#79, #99(2006)	2004
10.29(日)	38	深みより 主を呼ぶ	#37, #67(1990)	—
10.31 宗教改革記念日	80(?)	堅き磐石 わが主は、BWV 76 再?	#5, #53, I 独(1983)	2002
11.5(日)	115	備えよ わが心	<未演>	—
11.12(日)	139	幼な児のごとく 主に依れる者	特(2003)	—
11.19(日)	26	はかなく むなしき 地なるいのち	#93(2003)	2003
11.26(日)	116	平和の君 イエス	#40, #97(2005)	2004
12.3(日) 待降節第1日曜日	62	いざ来たりませ この世の救い主(II)	#111(2014)	2014
12.10(日)ー12.24(日)、3週間		[この間、待降節の齋戒期:カンタータ上演なし]		
12.25 降誕節第1日	91	頌め歌わん 主イエス、BWV 232 第3部サンクトゥス	#78(1995)	—
12.26 降誕節第2日	121	キリストを頌め讃えよ	<未演>	—
12.27 降誕節第3日	133	喜びて われ 主を迎えまつる	#80(1996)	—
12.31(日)	122	新たのみどり児 小さきわがイエスは	#103(2008)	2008